



ふるさとを守ろうとがんばる
狐たちの姿を見に来てください。

創作劇に寄せる参加者それぞれの
熱い思いを感じてください。

安城ヶ原から吹く新しい風が
皆さんの心に届くことを願って。

そして舞台は最終幕へ・・・

好評につき
追加公演
決定！

市民創作劇 — 明治用水異聞 —

「狐たちの安城ヶ原」

8月25日(日)／市民会館サルビアホール

開演 1 回目 ▶ 午後 2 時 2 回目 ▶ 午後 5 時 30 分 (追加公演)

※白色の入場整理券は、1 回目・2 回目どちらでも入場できます。

入 場 無 料
要 整 理 券

※市民会館で配布中
問い合わせ
市民会館 ☎(75)1151

人間と自然。共に生きる 大切さが伝えられれば。

正直言ってこんなにたくさんの方が参加してくれるとは思っていませんでした。でも、せっかく応募していただいたのに、役の数が足りないという理由でお断りするのはあまりにも寂しくて、全員に舞台上に上がつてもらうことにしました。一人で言うせりふがほとんどない方もいます。でも、そういう方たちも熱心に取り組んでいただいています。ありがたいですね。

膨らませていけると思ってたんですね。今回のお芝居のテーマは、人間と動物たち、人間と自然の「共生」、共に生きるということ。狐たちも農民が水がなくて困っていることはわかっている。でも、狐たちも自分たちが住んでいる森を失うのはつらい。その両面の気持ちを描けたらなと思っています。

まちづくりの一つとしてこの市民創作劇が企画されたことは承知していますが、それを特に意識したことはありません。ただ、この芝居を作ってきた、様々な人とのつながりができました。キャストやスタッフはもちろん、パンフレットに名前が載らない大勢の人たちも、芝居作りに手を貸してくださっています。そういう意味で、この芝居を作っていく過程こそが、まちづくりにつながっていくのかなという気はします。力を合わせて楽しくやれば、必ず何かなると思う、みんなががんばっています。本番当日、参加者のひたむきな姿をぜひ見ていただけたらうれしいです。



夏目 懋さん

なつめ・つとむ／安城学園高校で教べんをとる傍ら、同校赴任以来37年間、演劇部顧問を務める。また、市内で活動する劇団「各駅停車」を主宰。大山町在住。



四本木の森は残った

芝居の舞台となった「安城ヶ原」は、今のJR安城駅を中心とした一帯。四本木の森は、明治本町の「北明治稻荷社」として、今も残されている。
※脚本の基になった民話「四本木のきつね」(文・田中みのる氏、絵・加藤博氏、発行・安城文化協会)を読むと、さらに理解が深まる。中央図書館にあります。

第3編 脚本・演出家に聞く
豊かな演劇経験を生かし、ボランティアで精力的に芝居作りに取り組み夏目さんに市民創作劇に寄せる思いをお伺いしました。